

福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた研究開発 - 汚染物・廃棄物の分析技術開発 -

福島第一原子力発電所（1F）の放射性廃棄物は、従来の廃棄物と性状が異なるため、その処理処分方法の新たな構築が必須です。このため、放射性廃棄物の性状把握に必要な分析（放射能濃度等）を行っています。

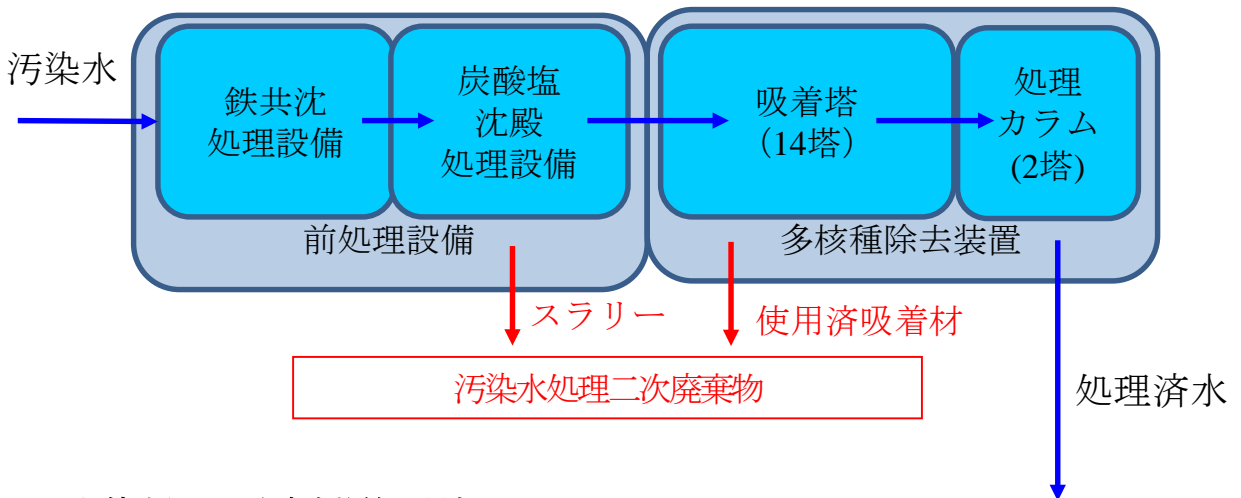
特に、汚染水の処理工程では、様々な沈殿剤や吸着材が使用されています。処理の過程で発生する沈殿物や使用済み吸着材ごとに分析方法を確立する必要があります。

これまでに、除染装置から発生したスラッジや多核種除去設備から発生した炭酸塩スラリーなどの分析方法を確立し、実際の廃棄物試料を分析しました。

開発した方法は、国内外の学会にて発表しています。また、廃棄物試料の分析結果は、国・東京電力に報告(*1)しています。

○汚染水処理で発生する放射性廃棄物の処理・処分技術開発を継続する

汚染水の処理工程で発生する廃棄物等は、従来の廃棄物と性状が異なるため、その処理・処分方法の新たな構築が必須



⇒ 汚染水処理二次廃棄物等の研究



除染装置スラッジ



グローブボックスでの
分析作業

2019年度実施内容：
汚染水処理二次廃棄物等の試料を対象とした放射性核種濃度等の分析及び結果の収集・整理

※東京電力目標工程：
処理・処分の方策とその安全性に関する技術的見直し 2021年度頃

*1) <https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2018/08/3-4-3.pdf>